

石川縣立金澤二水高等学校校歌

(昭和24年10月15日制定)

1.	2.	3.
美しき暁や	^{しゆく} 轟として風に立つ	傳統を語らむか
二方に水別れ	学問の自治の塔	^{はくざん} 高きこと白山に
衢の音とよみ来る	身に體してすこやかに	^{れいたく} つきせざるを靈澤に
我が社会ここに覚め	^{しま} いや勤るわが心	^{よそ} 擬へ言ふ我が誇り
潔し きよし若人の	^{おの} 若し わかし自れてり	固し 固し相共に
わが使命ここになりなむ	わが努力ここに輝く	きづかむよ文化の都

長野縣上田千曲高等学校校歌

(昭和25年10月制定)

1.	2.	3.
志美しき	信州の青年は	^{くつろ} 廣き胸 寬げて
信州の青年の	學び得て聰明に	青みたり小縣
言ふことぞ ^{いさぎよ} 潔 き	ことだての正しさよ	人心枉げざりし
わが誓ひ山川にかけて言ふ	^{えぼし の やま} 烏帽子岳山の磐根延ふ如	よき歴史世々を経てなごやかに
^{ゆほひか} 千曲川汪洋に行くきはみ	^{しか} 然 遠きわが文化興しなむ	しづかなる夢霞む上田城
この國はほろぼさじ	うるはしき我が郷土	ああ我等末遠き
安くあれ我が父よ	のどかなれ師の君よ	信州の青年よ

栃木縣立氏家高等学校校歌

(昭和24年12月18日制定)

1.	2.	3.
しもつけの花を 出て見よ	橡の木の 夏陰深き	鬼怒川の 流れは澄みて
しもつけの花の よろしさ	氏家の 町のよろしさ	わが心 すがしかりけり
^{きよ} いと潔し をとこさびして	空遠く 日光連山	純撲は 國を淨くし
^{をとめ} たをやかに 處女さびする	高原や 那須嶽も見ゆ	正直は ^{さき} 人を幸はふ
^{ひたごころ} 純 心 うちにたもちて	天そそる 山の氣うけて	従順の氣は 信深く
^{とどのほ} 整 れ 紳士の道に	世をすくふ ^{よきひと} 淑人出でむ	若うどの 胸をひろくす
淑女の學に	義人生れよ	ああ 吾等 努めむ

しおがま
宮城縣鹽竈高等学校校歌

(昭和25年5月6日制定)

- | | | |
|-------------|---------------------------------|--------------------------------|
| 1. | 2. | 3. |
| 美しき日本の | 学問は世を照し | 鹽竈の渚より |
| 蘇る日は來たる | 智慧にわが身は光る | 仰ぎ見る岡の空 |
| つよし 強し若うどの | きよし 潔しわが使命 | たかし 高しわが母校 |
| ふりさけ見る沖晴れて | 千賀松島眺望す
<small>うちわた</small> | あした開く澄める窓
<small>まど</small> |
| 常世の浪 ここに寄る | 爽かさに譬へむか | ゆふべかかぐ思索の燈
<small>ひ</small> |
| われ等かくてつねに開く | 永遠なるもの前にあり
<small>とは</small> | 天の下の風光に |
| 海のかなたのさやかなる | 光りは四方に耀けり | われ等遊ばむ若ければ |
| 文化の潮の下とよみ | われ等努めむ若き日を | われ等は張らむ希望の帆 |
-

愛知縣立瀬戸高等学校校歌

(昭和25年5月28日制定)

- | | | |
|-------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 1. | 2. | 3. |
| 八方に立つ煙 | とりよろふ山の木々 | 龍泉寺 猿投山
<small>さなげやま</small> |
| 朝空にふりさけて、 | 盡くるなき ごす、きぶし | 中世の夢棄てて、 |
| 今日を我学問す。 | 陶器に皆焼きて、
<small>すえもの</small> | ひらきたる自主の町。 |
| 窯々に照る炎
<small>かまがま</small> | 代々を經し陶の郷。
<small>すえ</small> | かがやかし近代の |
| 天雲を焦す時、 | 藝と學 相かなひ | ほこるべき傳統を |
| 今宵われ反省す | いちじるし。我が文化。 | 継がむ者、我等あり。 |
-

石川縣立大聖寺高等学校校歌

(昭和26年2月22日制定)

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------|
| 1. | 2. | 3. |
| 朝なり。 晴るる山なみに、 | 晝なり。 鐘ぞ鳴りひびく。 | 夜なり。 高く燈をあげて、 |
| 今日の日ひろくさしわたる。 | 知識は胸をかがやかし | 静かにむかふ窓の前 |
| 野を見よ 光る水の面。 | 技藝あかるく身に照れり。 | 自然のこころ いと深く |
| ああ とよみくる街のおと | ああ 学問と散策と | ああ 人文のきはみなき。 |
| ここに生ひたち、身はわかし。 | ひとつに享くる若き幸 | わかき日本を信じつつ |
| ほこりあり。 すなほなる | ひかりあり。 かぐはしき | 新しく きよらなる |
| 吾が生活のはじめの日 | 吾が生活の充足 <small>たら</small> ふ日や | 吾が生活をひらきなむ |
-

石川縣立羽咋はくい高等学校校歌

(昭和26年6月10日制定)

- | | | |
|--------------------------------|---------------------------------|----------------|
| 1. | 2. | 3. |
| 沙丘に 朝の日ぞのぼる。 | 晝風ぎわたる野を越えて、 | ゆふべとどろく邑知潟。 |
| みな出でて見よ。 水や空。 | ひびく。 羽咋の杜の鐘 | はるばる霞む気多の浦。 |
| 深き心は海に得て | 心澄み行く清き音は、 | 清き渚をゆびざして |
| 知識いよいよ明らかに、 | 高き希望に生きよとぞ。 | ここに誓はば、 わが友よ |
| 天つ空よりひろき胸 | 微妙 <small>いみ</small> じき思ひ胸を揺り | 学問 國を清しくし |
| 世にまじはらむ。 輝やかに。 | ああ鳴りわたる鐘の音 | 郷は 禮讓和みなむ。 |
| <small>ふるくに</small> 古國 能登に生ひたち | 故國 能登のよろしさ。 | 古國 能登を思へば |
| 使命はいよいよ若わかし。 | 使命はいよいよ饒 <small>にぎにぎ</small> 々し | 使命は いよいよ遠どほし。 |
| ああ新しき日本と | ああ新しき日本と | ああ新しき日本と |
| 吾等は在らむ。 とこしへに | 吾等は在らむ。 とこしへに | 吾等は在らむ。 とこしへに。 |
-

長野縣桔梗が原高等学校校歌

(昭和26年8月25日制定)

- | | | |
|---------------|----------------------------|---------------|
| 1. | 2. | 3. |
| 朝目よし。桔梗ヶ原 | 水無月の眞晝の峰 | 夕煙立ちわかるる |
| 日本の懐と | 嚴冬の雪を載す。 | 北信濃 諏訪 木曾路 |
| とりよるふ青垣や。 | わが生のきびしさは、 | 多岐にして 濃き文化 |
| よき光り 山に満ち、 | 風物に劣らねど、 | かくしつつ 興り來ぬ。 |
| 野に溢れ、里に照る。 | 毅くして 嫺雅 ^{かんが} なる。 | 近代の青年の |
| ああ とよみ来る ものの音 | ああ 学問の 空ひろく | ああ いちじるく よき歴史 |
| あたらしき知識のひびき | ゆたかなる心 ひらかむ | はぐくまむ 我らが胸に |
-

宮城縣佐沼高等学校校歌

(昭和26年8月 作詞)

- | | | |
|---------------|-------------|------------------------------------|
| 1. | 2. | 3. |
| ひんがしに よき國ありて | 野に出でて 聴け水の音 | 栗駒の 空夕やけて、 |
| 北上の遠山を | 晝深きせせらぎは、 | しづかなる夜の思ひ。 |
| 朝空に垣とせり。 | 遠く來て とはく去る | 陸奥の荒野らを |
| 心すぐなるよき人の | 迫川その瀬のそよぎ。 | ^{みな は おやおや}
悉皆田に墾りし祖々の |
| 常に和みて住むところ | 日々に学問新しく | 代々の経験 とほけれど、 |
| われら 清しく行き交ひて、 | 技術とりどり潔らかに | 匂ひやかなる近代の |
| 若き禮讓 里に充つ。 | 青春とこしなへならむ | 知識の外のものならず |
| いさぎよし 我が佐沼。 | みづみづし 我が佐沼 | かがやかし 我が佐沼。 |
| ああ 佐沼高等学校 | ああ 佐沼高等学校 | ああ 佐沼高等学校 |
-

青森縣八戸市立工業高等学校校歌

(昭和26年11月3日制定)

1.

晴れよ。陸奥^{みちのく} 青々と
 山脈^{やまなみ} 大野 わたつみも、
 輝けり ただ^{ひと}に一色。
 暁の光りほおよぶ。
 大路^{やちまた} 八街 塔 薨
 またそそり立つ学校や。
 若々し そこに勤しむ
 みづみづし わが肩に照る

2.

曇れ 日本。くもるとも、
 姑^{しば}し天雲^は 霽れむ間ぞ。
 眞晝 空片かげりして、
 馬淵川 そよぎ澄みゆく。
 地方^{ひな}といへども最頂崎^{ほつみざき}
 青森縣のよき都市に
 生れ來し恵みの深さ。
 このほこり 身もてこたへむ

3.

しづかに暮るる夜の燈に、
 けふの一日を 省みむ。
 怠らず 学問せしか。
 はげみつつ技能か練りし
 春かぐほしく よき希望
 ここに廻りて來む日まで、
 努めむよ 学生として、
 すがすがし 若人として

茨城縣立下妻第二高等学校校歌

(昭和27年3月1日制定)

1.

明け來たる あけきたる
 下妻の若きわれらに
 朝は來ぬ
 筑波の空の濃紫
 たちまちかはる野の緑
 古き文化の静けさに
 まづ入り立ちて はたらかむ
 ああ脈はしる胸はりて
 われらがあぐる 若き聲
 われらはあげむ 清き歌

2.

晝深し ひるふかし
 下妻の清き野山に
 日はそそぐ
 窓あけ放て かがやかに
 目路にひろがる 水の面
 澄める湛へは わが知識
 鬼怒^{おほたから} 大寶 小貝川
 清らに冴えて美しく
 われらはあらむ とこしへに
 われらはあらむ^{とこわか} 常若に

3.

夜となりぬ 夜となりぬ
 下妻に 心ゆたけき
 夜は到る
 思ひはろけく 才すぐれ
 うるはしかりし昔人
 七たび 八たび 思ひみて
 瑞^{たか}の高機^{はた} 織れるごと
 しづかに燃ゆる窓の燈に
 われらは^も瞻らむ 永遠にして
 われらは活くる 浄き智慧

福岡縣立東筑高等学校校歌

(昭和27年11月22日制定)

- | | | |
|---------------------------|---------------------------|-----------------------------|
| 1. | 2. | 3. |
| 筑紫の国の 国の崎 | 大獅子吼して 汽車来る。 | ここに日本はじまれる |
| とほく霞みて 海に入る | 遠賀川橋 ^{まじぐら} 驀地に、 | 筑紫に 吾等生れあひ、 |
| 遠賀の水門も 望むべし。 | 汽罐は晝を鳴りわたる。 | ああ言ひ知らぬ 誇らしさ。 |
| 目翳をかざせ。 汐境 | 折尾の空に ^{そそ} 聳るもの | ^{まぶ} 鉦坑にとどろくものは、 |
| 響灘 玄海の波 | 青嵐 丘をめぐりて | 甦り来る 国の音。 |
| 澄みわたる 朝の幻。 | すがすがし わが学校。 | さ夜深き 皿倉おろし |
| 馴れ馴れて 海の若人 | 若き日の 代々の先輩。 | ともし火を 高くかかげよ。 |
| 吾こそは、 洋の独り子 | 年を経し わが伝統。 | あきらかに わが道を見む。 |
| 吾らかく 若々し。 | 吾らかく 勤しめり。 | われらかく さやかなり。 |
| 身は健かに ^{むね} 気宇ひろく | 心ただしく 才高く、 | 智慧明らかに ^{さとり} 認識よく、 |
| 筑紫の海の如 あらむ | 筑紫の山の如 あらむ | 筑紫の空の如 あらむ |

よきかな東筑 うるわしく
東筑 東筑 寛かなれ
ああ 東筑

青森縣立三戸高等学校校歌

(昭和27年 12月1日制定)

- | | | |
|---------------|---------------|-----------------|
| 1. | 2. | 3. |
| 山は青空 今日も晴。 | 三戸びとの出でて見る | しづかに更くる馬淵川 |
| 朝戸開かむ。 いでわれら | 目路 南北にうち開け、 | 反省の夜となりにけり。 |
| 日に仰ぎ見る 東の | 奥羽街道輝けり。 | 今日は悔いなく過ぎにしか。 |
| 長根朗らに明けわたる。 | 然 はるかなる わが知識。 | 明日のかまえは足らへりや。 |
| ああ とりよろふ名久井岳。 | 昼なり。 とよむ町にして、 | 甦りくる日本に |
| 三戸びとよ。 はらからよ。 | 秩序しづけき山に野に | すがしく生きむ。 ああわれら。 |
| 聴け。 わがあぐる朝の声。 | 勤しむ友の額を見よ。 | 清き 三戸びととして。 |
| 庭教室にあがる声。 | はたらく私の汗を見よ。 | 若き 陸奥びととして。 |

三戸 三戸 ああ 三戸。
三戸輝け。 さんとして
ああ 三戸高校。

栃木縣立茂木高等学校校歌

(昭和28年2月25日制定)

- | | | |
|---|--|---|
| <p>1.</p> <p>国境に よき里ありて、
山高く、川遠じろし。
歴史あり、未來ゆたけき
下野の茂木の町。
朝の風 山より到り、
野に吹きて すがしき時、
疾く起きて をちこちす。
日々のわがいとなみに、
町は今 響きを交す</p> | <p>2.</p> <p>鳴りとよむ汽笛のひびき
ここ出でて 更に遙けし。
馬 車 人雑沓す。
下野の茂木の町
晝の日は、田の面に反し、
わが額 汗に光る。
聲張りて 書讀めば、
文字清く みな活きて
ああ 知識 胸に沁み来る。</p> | <p>3.</p> <p>しづかなる夜となり行けば、
<small>たい のづら</small>
田居 野面 谷の入りまで、
かがやかに <small>ほかげつらな</small> 燈影 列る。
下野の茂木の町。
遠き代ゆ 里に傳へし
家々の 祖のをしへ、
花ぐはし 近代の
よき文化 かをり合ふ。
ああ たのし われら努めむ</p> |
|---|--|---|
-

三重縣立鳥羽高等学校校歌

(昭和28年2月1日制定)

- | | | |
|--|--|--|
| <p>1.</p> <p>清き渚の松に見よ
心すがしく我等あり。
深き汀の波に聴け
思ひゆたかに我等あり。
ここに集ひてうちあぐる
若きわれらの朝の声
遠海山の境越え
伊勢に、三河に、はた尾張
こだまを返し響くなり。
然 学校の名をあげむ。</p> | <p>2.</p> <p>晴れよ神島。水や空
青一色の海原に、
答志、菅島、坂手島
竝びよろしきの晝の風ぎ。
ああ言ひ知らぬ風光の
中の一つぞーわが校舎。
明るき庭に、教室に、
波かがやかに照り返り、
わが読む本の行と行
知識と生きて光るなり。</p> | <p>3.</p> <p>沖は、いさり火つらなりて
しづかにひびく汐の音。
夕さり来る窓の上に
我また一つ燈をあげて、
一日のあとを省みむ。
人の心をきずつけず
我もあやまちなかりしか、
わが学廣く、才高く
近づく明日を豊かなる
望みを持ちて迎えなむ。</p> |
|--|--|--|

鳥羽高校に光りあれ。
ああ清くして 輝やかに
鳥羽高校よ とこしへに。